
ソセゴンボール～ペリー星人と戦った戦士たち～

生時(レジェンド)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソセゴンボール～ペリー星人と戦つた戦士たち～

【Zコード】

N1598K

【作者名】 レジエンド 生時

【あらすじ】

今回はソセゴンボールスペシャルです。

今までと違い僕も出てきませんし、ギャグもないです（僕の活動報告を参照）

かつて惑星トクガは平和で豊かな星だった。

だが、この星の闇夜を照らすペリー星は、百年前に核戦争を起こし、「死の星」と化した。

生き延びたペリー星人たちはそんな地獄のような星で生活をすることとなつた。

それから時は流れ、20年前、生き延びたペリー星人たちは「死の星」の近くにある惑星トクガに目をつけ、トクガ星を自分たちの星にしようと攻め込んだ。

そして戦争が勃発し、長い戦いが始まった。

この戦争で活躍したのが、バータッカ通称タ力と呼ばれる戦士。さらに宇宙を旅するのが好きなサカモトーマ通称サカや、ズラと呼ばれている本名、カツータ。

そして地球で暮らしていたが星を守るために帰還した坂田銅時の4人だ。

戦いは続き、十数年後……

オウミヤ星といつ星にサカモトーマとタ力はやつてきた。

サカ

「タ力よワシは臆病者じやから、この星に逃げてきたが、おまんは何故ついてきたんじや？」

タ力

「強力な軍隊を作るためだ。だが、俺たちの星では戦力になるのはお前や俺、ズラや銅時くらいだ。そんなんじや奴らには勝てん。なら他の星に行き強力な戦士を集めようと思つてきた。それだけだ」

サ力

「ほーう、わすがじやの。臆病なワシとは大違はずよ」

タ力

「フン……お前が逃げたのは、仲間の死を見続けたくないからだろう」

サ力

「理由はどりあれ、逃げたもんは臆病者ぜよ。おまんにしても、カツータにしても逃げずに戦い続けているモンとはちがうぜよ。おお、そりそり、銅時はなんかすうじのモンを作つておるうじいの。ワシとは大違いじや」

タ力

「そりそり……さて、俺はこの星に強そりの奴がいないか探していくか」

タ力はそう言つて去つていった。

サ力

「やれやれ、もひーじこは強い奴などおらんのこ……ここの星のほとんどのモンがアイツに半殺しなつておるんじやから……」

辺りを見渡せば、この星の強そりなやつらが、うなりながら倒れていた。

タ力は強力な軍隊を作るために、強そうな奴に喧嘩を売つて、強ければ仲間にするつもりだったのだ。

タ力が去つてから2時間が過ぎた頃、サカモトーマの前に一人の男が現れた。

謎の男

「サカモトーマだな。ずいぶん探したぜ」

男は何かに飢えた目をし、大きな日傘をさしていた。

サカ

「おまん、ここの星のモンじやないようじやが、ワシに何かようか？」

謎の男

「俺の名はアブトリア、ペリー星人たちからあんたらトクガの英雄を始末してくれと頼まれた賞金稼ぎだ」

サカ

「ペリー星人の刺客か～こりや～困つたぜよ」

アブトリア

「俺ともう一人ザムイという奴で、オタクらの星に攻め込んだんだが、カツータと坂田はいたが、オタクとバータツカはいね～。それで、おたくの星の兵士を捕らえて拷問したら、あんたらは母星を捨て逃げたと聞いて、俺がオタクらを探して始末する事になった」

サカ

「逃げたのはワシだけじゃ。タ力は逃げておらんぜよ

アブトリア

「じゃあ、どうこうつたんだ?」

サカ

「さあのう……それよりおまん何故に傘などさしつる? 日の光を浴びていろと気持ちいいぜよ」

アブトリア

「俺は日の光が嫌いでね~浴びていたら溶けやうになる。だから傘でお日さんから守つてもらつていい」

サカ

「そうか」

そう言つてサカは刀を抜き、斬りかかった。

アブトリア

「ああ~それから、この傘は日の光だけじゃなく、俺の敵からも身を守つてくれるんだよ」

そう言つて、斬りかかるサカの一撃を傘で受け止めた。

サカ

「(な、なんじゃ)この傘、鋼鉄ができるんか?」

アブトリア

「そしてこの傘は、俺の最大の武器にもなる」

そういうと、アブトリアは傘をたたみ、サカの脳天に一撃を喰らわ

せた。

ドーン！

とすごい音が当たりに鳴り響いた。

タ力

「な、なんだ！？あの音は？まさかサカの奴が」

タ力は急いでサカの元に戻った。

そして、彼がたどり着いた時には、サカは瀕死の状態だった。

タ力

「サカモトーマー！」

サカ

「タ力、逃げるぜよ……」「いつは化けモンじゃ……」

それがサカの最期の言葉だった。

タ力

「てめ〜、何モンだ？」

アブトリア

「ただの賞金稼ぎさ。オタクらを始末してくれとペリー星人から頼まれてね」

タ力

「てめ〜」

タ力は血が出るほど拳を強く握り、そして刀を抜き斬りかかった。

アブトリア

「やれやれ、これじゃ～さつきと同じだぜ……面倒だから今度は、
最初から攻撃させてもらひつぜ」

二人の激しい戦いが始まった。

そして、アブトリアの傘がタカの左目に突き刺さった。
彼の左目から大量の血が流れる。

アブドリアは傘についたタカの血を舐め、そしてタカと同じように
脳天へ重い一撃を引いた。

アブトリア

「もつと楽しめると思ったんだが、期待はずれだ」

だがその時、タカが油断したアブトリアの傘を持っている右腕を切り落とした。

アブドリア

「フッハハ！さつきの言葉、訂正しどくぜ。お前さんとの戦い面白
いぜ」

左目を失ったタカに右腕を失ったアブトリア……

だが戦いは続く……

タカは正眼に構え、そして神速で袈裟切り、だがアブトリアは左に
避けた。

だが、タカはアブトリアの動きを読み、そのままアブトリアの体を

薙ぎにいった。

アブトリアの体から大量の血が噴出し「面白かつたぜ」と言い彼は散つた。

その後タカは、一度トクガ星に戻ることにした。

トクガ星ではペリー星人と激しい戦いが続いていた。
しかもズラがザムイとの戦いで負傷……
このままではトクガ人の敗北は見えていた。

トクガ星に戻ったタカは、血を流しながらある廃墟へ向かった。
そこはかつて、ズラやタカ、銅時が文武を学んだ道場であった。

トクガの兵士

「た、大変です、バーダックさんが重症で帰つてきました」

ズラ

「タカ！大丈夫か？」

タカ

「フン……お前のほうこそ大丈夫なのかよ」

銅時

「もう少しだ。もう少しで完成する」

兵士

「大変です！ペリー星人の大軍がこちらに向かってきています。おそらくその中にはザムイもいると思われます」

銅時

「クソー！もつ少しで完成するのに」

タ力

「銅時、お前はアンドロイドを作り続ける。その間、奴らは俺がくい止める」

ズラ

「その体では無理だ！俺がいく」とズラが言つた瞬間、タ力はズラの鳩尾を殴り、彼を氣絶させた。

タ力

「死に行くのは俺一人で十分だ」

兵士

「我々もお供します」

タ力

「来るな！足手まといだ」

兵士

「し、しかし」

タ力

「ついてきたら、殺すぞ！」

兵士

「……」

タ力は一人、敵軍に攻め込んだ。

ペリー星人A

「誰か来るぞ！あつ、あれは、バーツカ！生きていたのか？」

ペリー星人B

「賞金稼ぎの奴らなどあてにならん。突撃だ」

タ力

「バーツカここに参上！」

すでに瀕死の状態でありながらもタ力は次々と敵軍を斬りつけていった。

ペリー星人C

「ば、化け物だ！」

その時、さわやかな美少年が、微笑みながら現れた。

そう、この少年こそがザムイだ。

ザムイ

「あなたが生きているということは、アブトリアは死んじやつたのかな」

彼は微笑みながらそう呟いた。

タ力

「てめ〜が、ザムイか！」

タ力はそのままザムイに斬りかかった。

そして大量の血が、まるで雨のように噴出した。

ザムイ

「残念だ。できればベストの状態のあなたと戦いたかった」

大量の血を流したのはバー・タッカだった。

ザムイは、タカの攻撃よりも早く、抜き手でタカの心臓を貫いたのだ。

タカ

「（ズラ、銅時後は任せたぞ……ん？なんだ？幻覚か？銅時？いや、違う……もしかしてこいつが……）」

タカが死ぬ間際に見たもの、それは銅時が作ったシロ夜叉がペリー星人の大軍を一人で鎮圧し、さらにザムイを倒す姿を彼は死ぬ間際に見たのだ。

タカ

「（こいつに俺の遺志を託すぜ。死んだトクガ人の敵カタキを討つんだ）」

そしてバーダッカは散った。

哀しくはかない花びらのように……

1年後、シロ夜叉がザムイを倒し、勝利はトクガ人のものと思われたが、ザムイとの戦いでシロ夜叉は重傷を負い、さらにまだ5歳という幼き頃のペリー・ザにカツータや銅時も重傷を負わされ、ついにトクガの王は敗北を認め、トクガ星はペリー星人のものとなつた。そして銅時はシロ夜叉を連れて再び地球へと旅立つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1598k/>

ソセゴンボール～ペリー星人と戦った戦士たち～
2010年10月15日20時26分発行